

第2章 国語科の取組

I 昨年度の国語科の研究概要

1 研究テーマ 「課題解決につながる読解力の育成」

生徒に身に付けさせたい力として、「評論文の読解に必要なキーワード・キーセンテンスを見つけ筆者の細かな思考を読み取る力」を設定した。そして、その力を身に付けさせるために「センター試験の評論の問題を使い、各問を解くために必要なキーワード・キーセンテンスを探し出させる。またキーワード・キーセンテンスにも部分的な読解に必要なものと全体の思考に必要なものがあり、それぞれの問題を解く場合に重要になることを把握させる。」という手立てを考えた。

2 成果と課題

教員からの説明が中心の講義形式の授業では、生徒相互で意見を交換する場面がない。特に3学年の入試を意識した授業ではこの傾向が顕著である。この反省から3学年の大学入試問題演習を、グループ討議という生徒の主体的な活動によって行った。生徒の思考の方向性を示すワークシートの使用を前提として授業を展開し、問題を検討することとキーワード・キーセンテンスの把握をポイントとして、評論文の読解の基本を最確認した。

【成果】

- ① グループ活動という場面を設定したことで、生徒相互の意見交換を活発にすることができた。
- ② 生徒が主体的に「読解に必要なキーワード・キーセンテンス」を見つけ、評論文を筆者の思考をたどりながら構造的に読解することができた。

【課題】

- ① 授業の目的を明確にすること。特に3学年のこの時期は生徒の心の余裕がなくなり自分のことしか考えなくなる傾向がある。授業の目標・意義の徹底を計っておくべきだった。
- ② 評価の方法も検討しておかなければならない。普段グループ活動をしていないので、評価について具体的な観点が不足していた。

II 今年度の研究について

平成27年度から取り組んだ「学びの変革」アクションプランを踏まえた授業づくりについて、全教科・科目で日常的に取り組み、研究授業において検証を行い、成果と課題を明らかにすることが今年度の研究授業全体の趣旨として示されている。

これまで国語科では、

平成26年度「読解力を伸ばすための指導の工夫」

古文『兵部卿物語』（センター試験国語過去問題）

平成27年度「構造から趣旨を読み取る指導の工夫」

評論『時間と自由の関係について』内山節

平成28年度「課題解決につながる読解力の育成」

評論『かんけりの政治学』栗原彬（センター試験国語過去問題）

というテーマ設定で「皆実国語科の授業作り」に取り組んできた。

こうした取組を受けて、国語科の研究テーマは「生徒の疑問を柱とした、構造的な読解のための指導の工夫」とした。全体のテーマ「皆実コンピテンシーの育成をはかる授業づくり」をふまえた課題発見・解決学習の試みでもある。そして、サブテーマとして、「本質的な問についての思考を深めるための仕掛けを、パフォーマンス課題の工夫を通して行う」ことを考えた。平成27年度、28年度は、現代文の評論が教材であったので、今年度は小説を扱うこととした。

2学年の現代文Bで扱う小説教材は、『山月記』中島敦と『ころ』夏目漱石の二つである。研究授業では、小説の「人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる」という指導事項を、生徒の「疑問点」を軸として、グループ活動を通して行った。また、作品のなかで、表現された人物の状況、その人物が行動する場面の情景、人物の心情の推移などを読み取り、グループで共有することを基盤として、作品のテーマに深く迫っていくことを目指した。4人のグループで「自分の読み」を伝え合うという対話的な学びによって、生徒は自分の読みを確かめるとともに、違う視点も知り、読解を深めることができると考えた。

1学期に扱った『山月記』では、各自がワークシート「読解メモ」に「みんなで考えてみたい間」を記入、提出し、授業者がそれを用いて授業を展開することを行った。特に「語り手の視点」に注目した読解を進め、最後に「中島敦（作者）は、李徴を虎に変身させることで何を表現しようとしたのだろう。」と、作品のテーマに迫る間を考えた。そのなかで生徒は作中の人物の心情に寄り添い作品を味わうよりも、教訓的に読むことが多いということも分かった。

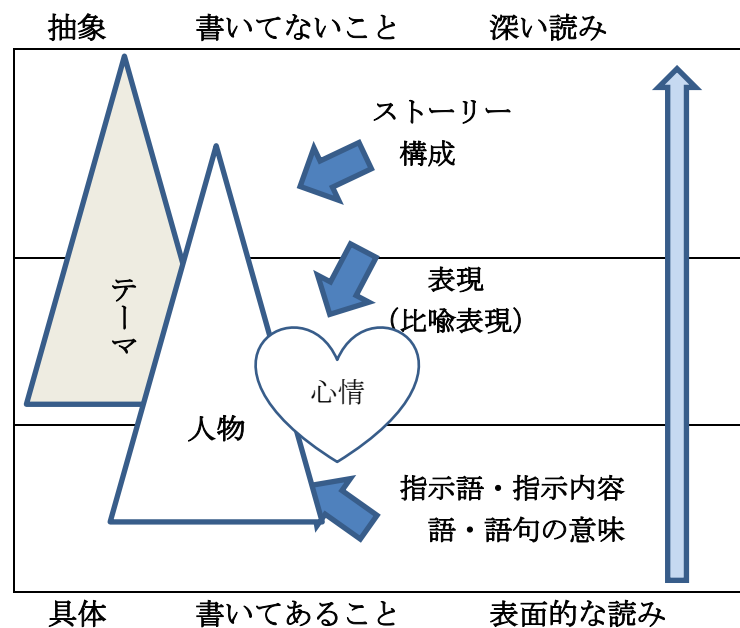
学習指導要領では、

「書き手の意図」を的確にとらえることは、どのような文章を読む際にも欠くことができない。この文章で書き手は何を伝えようとしているのかということ間違いなく把握するためには、文章に表れている書き手の思考の進め方に着目し、書き手の考えや強調点を読み取ることが大切である。なお、書き手の意図には、文章の内容に表れている書き手の考えのみならず、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかということも含まれる。「人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ」ることは、文学的な文章を読む際の重要な指導事項である。

ここでは、書き手によって設定され、表現された人物の状況、その人物が行動する場面の情景、さらには人物の心情の推移などを間違いなく把握することが大切である。「表現を味わう」とは、書かれている内容だけではなく、それらの内容がどのように書かれているのかなどという点にも着目し、叙述が醸し出すものを味わうことである。他の表現と置き換えた場合と比較してその効果を確認したり、ひたすら読み浸ったりするなどして表現を味わうことは、文章を読むに当たって大切なことである。

とある。

生徒には、次の図を用いて小説を読解する際に意識してほしいことについて説明し、疑問点を考える読解の土台として共有した。



Ⅲ 国語科学習指導案（現代文B）

授業者 田丸 照彦

- 1 日 時 平成29年11月8日（水） 第5限
- 2 場 所 2年5H教室
- 3 対 象 普通科2年5H 41名（男子14名 女子27名）
- 4 単元名 小説（「こころ」夏目漱石 『精選現代文B』東京書籍）

5 単元について

（1）単元観

教科書に採録される夏目漱石の作品として、多くの高校生が接する近代小説である。生徒の持っている資料「常用国語便覧」では、「人を傷つけずにはおかぬ恐ろしいエゴイズムと、それ故に犯した罪に対する苦悩、そして死を帯びた精算を静的かつ迫真的な筆致で描いた作品」と紹介されている。生徒にとって語彙、文体ともなじみは少なく、難解に思えるかもしれないが、人物や心情、情景を読み取り、表現効果や表現意図について考察することで、人間の心を深く掘り下げていくことのできる文学作品として優れた教材である。

（2）生徒観

生徒は「国語総合」で「羅生門」「富嶽百景」、現代文で「山月記」と短編ではあるが、本格的な小説には触れている。「山月記」では各自の「疑問点」を軸とした授業展開を試みてきた。そのなかで小説を教訓的に読む生徒が多いということも分かってきた。この点についても指導に工夫が必要である。評論に比べて小説に対する関心は高く、テーマについて考えようとする姿勢を持つ生徒は多い。本作品に接することで、文学観・世界観・人生観について、生徒の興味・関心がより大きく広がることを期待したい。

（3）指導観

「人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる」という指導事項を、生徒の「疑問点」を軸として、グループ活動を通して行いたい。また、作品のなかで、表現された人物の状況、その人物が行動する場面の情景、人物の心情の推移などを読み取り、グループで共有することを基盤として、作品のテーマに深く迫っていくことを目指したい。4人のグループで「自分の読み」を伝え合うという対話的な学びによって、生徒は自分の読みを確かめるとともに、違う視点も知り、読解を深めることができると考えている。

6 単元の目標

- （1）言葉の意味や表現に留意して文章を読み取ったり味わおうとする。（関心・意欲・態度）
- （2）言葉の意味や表現に即して、人物や心情、情景を的確に読み取ったり、表現効果や表現意図について考察したりしている。（読む能力）
- （3）「書き手の意図」について考察し、文章化している。

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
言葉の意味や表現に留意して文章を読み取ったり、味わおうとしている。	言葉の意味や表現に即して、人物や心情、情景を的確に読み取ったり、表現効果や表現意図について考察したりしている。	語句の意味や用法を理解し、表現上の特色をとらえている。

8 指導と評価の計画（全9時間）

次	学習内容（時数）	評 価				
		関	読	知	評価規準	評価方法
1	作品、の全体像と文学史的背景を理解する。	○		◎	資料をもとに、ワークシートに取り組んでいる。	ワークシート
2	作品全体の概要と、授業で扱う場面の関連について理解する。授業で扱う場面全体の「あらすじ」を各自で理解する。		◎	○	資料をもとに、ワークシートに取り組んでいる。作業をしながら黙読している。	ワークシート 行動の観察
3	全文（第1段落～第15段落）の「あらすじ」をグループで話し合い理解する。		◎		グループでワークシートに取り組むことで、各自の理解を確かめている。	ワークシート 行動の観察
4	第1段落～第5段落を読解する。「疑問点」を記入し、グループで話し合い発表する。全体で考える疑問に対する説明を考え発表する。	○	◎		あらすじをふまえ、言葉の意味や表現に即して、人物や心情、情景に注目して、疑問点を考えている。グループでお互いの疑問点の内容を整理し、共有している。	ワークシート 行動の観察 発表
5	第6段落～8段落を読解する。「疑問点」を記入し、グループで話し合い発表する。全体で考える疑問に対する説明を考え発表する。本時	○	◎		あらすじをふまえ、言葉の意味や表現に即して、人物や心情、情景に注目して、疑問点を考えている。グループでお互いの疑問点の内容を整理し、共有している。	ワークシート 行動の観察 発表
6	第9段落～第12段落を読解する。「疑問点」を記入し、グループで話し合い発表する。全体で考える疑問に対する説明を考え発表する。	○	◎		あらすじをふまえ、言葉の意味や表現に即して、人物や心情、情景に注目して、疑問点を考えている。グループでお互いの疑問点の	ワークシート 行動の観察 発表

				内容を整理し、共有している。	
7	第13段落～第15段落を読解する。「疑問点」を記入し、グループで話し合い、発表する。全体で考える疑問に対する説明を考え発表する。	○	◎	あらすじをふまえ、言葉の意味や表現に即して、人物や心情、情景に注目して、疑問点を考えている。グループでお互いの疑問点の内容を整理し、共有している。	ワークシート 行動の観察 発表
8	登場人物と自分自身をベン図で書き示し、作品のテーマに関する疑問点を考える。	○	◎	ベン図を作成し、グループで説明している。テーマと関連づけた疑問点を考えている。	ワークシート 行動の観察 発表
9	作者の視点を改めて設定し、作品を読み直し、テーマを考察し文章化する。	○	◎	これまでの学習を振り返り、作者の視点で作品を振り返っている。テーマについての考察を文章化している。	行動の観察 作品

9 本時の展開

(1) 本時の目標

言葉の意味や表現に即して、人物や心情、情景を的確に読み取ったり、表現効果や表現意図について考察したりしている。(読む能力)

(2) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
1 言葉の意味や表現に留意して読もうとしている。 2 グループでの話し合いや作業に積極的に参加している。	1 言葉の意味や表現に即して、人物や心情表現を読み取っている。 2 表現効果や表現意図について考察し、お互いに説明し合っている。 3 疑問点について話し合い、全体での発表をもとに、説明を考えている。	

(3) 準備物

ワークシート 発表用シート マジック

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
<p>【導入2分】 前時までの振り返りを行い、本時の学習内容・目標を理解する。</p>	<p>お嬢さんへ恋を打ち明けたKと、何も返せなかった私。その後の私の思案など、前時を振り返り、ワークシートにそって学習を進めることを伝える。</p>		
<p>【展開①5分】 第6段落から第8段落のあらすじをグループで振り返り、共有する。</p>	<p>4名のグループであらすじを共有させる。各段落のキーワード・キーセンテンスは、音読して全体でも共有させる。</p>	<p>○グループでの話し合いや作業に積極的に参加している。</p>	<p>ワークシート 行動の観察</p>
<p>【展開②15分】 自分の疑問「みんなで考えてみたいこと」を記入し、グループで伝え合う。全体に発表する疑問を決める。各グループの発表を聞き、メモを取る。</p>	<p>疑問点を考える際の評価指標を示す。疑問をワークシートへ記入させる。個人での疑問を考えさせた後、グループで伝え合い、評価指標を意識して吟味させる。発表用シートに記入させ、黒板に貼り付けて発表させる。メモをとらせ、疑問の分類・整理をさせる。</p>	<p>○言葉の意味や表現に即して、人物や心情表現を読み取っている。 ○グループでの話し合いや作業に積極的に参加している。</p>	<p>ワークシート 行動の観察 発表</p>
<p>【展開③25分】 各グループの疑問を整理し、全体で考える疑問を設定する。グループで説明を考え発表する。メモをとって聞き、自分の説明を文章化する。</p>	<p>各グループの疑問を分類・整理し、提示する。(事前に提示した疑問の位置づけによる。) グループでの説明原稿を書かせ、発表させる。 発表された説明を評価指標に基づき評価させる。 学習内容を総合的に思考させ、自分の説明を文章化させることで、思考を深めさせる</p>	<p>○グループでの話し合いや作業に積極的に参加している。 ○疑問点について話し合い、全体での発表をもとに、説明を考えている。</p>	<p>ワークシート 行動の観察 発表</p>
<p>【まとめ3分】 本時のまとめと次時の予告をする。</p>			

10 疑問点を考える際の評価指標

	1	2	3
構成 ～ テーマ	構成をふまえず、テーマを考えようとしている。	部分的な構成からテーマを考えようとしている。	全体の構成からテーマを考えようとしている。
心情 ～ 人物	一つの心情表現に注目して人物像を考えようとしている。	複数の心情表現に注目して人物像を考えようとしている。	複数の心情表現や場面状況をふまえて人物像を考えようとしている。
表現 ～ 心情	直接的表現から心情を考えようとしている。	説明的表現から心情を考えようとしている。	比喩的表現、表現の特徴から心情を考えようとしている。

11 ワークシート 1 (みんなで考えてみたいこと) 2 (グループでの説明)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

※4 他グループの疑問 (発表を聞いて) を書きよう。

※3 発表をまとめた疑問
疑問をまとめる際の注意(意味が不明な点)を必ず書きよう。

例) どの場面でも登場人物の心情がわかるか? 場面がわかるか? 場面がわかるか? ...

※2 第1段落、第2段落のなかで「みんなが気になること」を...
...「みんなが気になること」をグループで共有しよう。

※1 第1段落、第2段落のなかで「みんなが気になること」をグループで共有しよう。

疑問点を柱に「1」を書きよう

... 「みんなが気になること」をグループで共有しよう

※1 第1段落、第2段落のなかで「みんなが気になること」をグループで共有しよう。

※1 発表をまとめた疑問
疑問をまとめる際の注意(意味が不明な点)を必ず書きよう。

※2 第1段落、第2段落のなかで「みんなが気になること」を...
...「みんなが気になること」をグループで共有しよう。

※1 第1段落、第2段落のなかで「みんなが気になること」をグループで共有しよう。

疑問点を柱に「1」を書きよう

... 「みんなが気になること」をグループで共有しよう

※1 第1段落、第2段落のなかで「みんなが気になること」をグループで共有しよう。

IV 研究協議の記録

司会（中村治）

記録（吉本）

<p>授業者より 指導の工夫等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の疑問を授業の柱として授業展開をする際、疑問点を考えるための評価指標を提示して生徒に「疑問」を立てさせている。 ・個人作業，グループ作業，全体での共有などを，授業展開に応じて切り替えている。
<p>協議・助言等の 内容</p>	<p>この授業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に活動して，自分の「疑問」をグループで活発に話し合っていた。他のグループの発表を聴くことで，より多様で深い読みにつながる授業である。 ・今までの積み重ねもあるのか，生徒の動きがスムーズで，授業者の意図している目標に向かって，各々の意見をまとめ意見交換していた。 ・一方通行の授業でないことで，生徒の主体的な学びになっていた。 ・発表用のワークシートが使いやすい物であった。 ・ワークシートに評価指標があるので，疑問の作成に役立つ。 <p>この授業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒から出てきた疑問の整理の仕方が悩むところである。 ・どのような意見が出てくるのかは，当日にならないとわからないので，ライブ感はあるが，どうまとめていくかが課題である。 ・一つの単元を行うのに，時間的な余裕が必要である。 ・自由な読みから一つの「正しい読み」に着地できるかどうか。そもそも「正しい読み」が文学作品の場合，存在するのかどうか。 ・学習者の状況によっては，成立しにくい授業のスタイルではないだろうか。 ・「文学国語」「新テスト」のあり方にもつながるのではないか。
<p>今後の課題 と 改善策</p>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的多様な読みを促す取り組みであるが，扱う単元を全てこの授業スタイルで行うことはできない。 <p>分析（根拠）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間的な余裕のなさや基礎力の養成の必要性もあるから。 （基礎力養成の時間と，ゆっくり読み込み考える時間の両方が必要） <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元（授業）のなかを「読み方を学ぶ」ところと「それをもとに自分なりに解釈する」ところを分けて単元の展開・授業展開を行うことで，「多様で深い読み」に生徒を導くことができるのではないか。

V 今年度の研究を終えて

授業・生徒の様子

「生徒の疑問を柱とした、構造的な読解のための指導の工夫」という研究テーマは、課題発見・解決学習の試みでもある。授業クラスの2年5H（文型クラス）は明るく真面目な生徒が多く授業でペアワーク、グループワークなどの活動を行うと活発な意見交換ができる生徒集団である。ただ、指示待ちの傾向がやや強いことが一学期の授業を通して気になった。活動の指示をきちんと聞くことは大切で、それができるのはすばらしいことである。しかし、文学作品の読解についても指示待ちでは困ると考えた。

一学期に扱った『山月記』の授業で、小説作品をどこか教訓的に読む生徒の実態が気になり、社会規範や常識を疑い、いわゆるフラットな状態で自分の読みに気付き、作品の持つ本質的な問に迫ることはできないかと考えた。そして、「自分の疑問」を言語化するところから主体的な読みを始めさせたいと考えた。生徒は予習において「疑問に思ったこと」と「みんなで考えてみたいこと」を準備してくる。そして、グループで作品の内容（あらすじ等）を共有した後、ワークシートを用いて自分の疑問点を発表し、全体で考えてみたい疑問点を決定する。その際、「疑問点を考える際の評価指標」を用いる。この指標があることで、お互いの疑問点が何を問うているのかが明確となり、全体で考えたい問のレベルも上がってきたと思われる。自分勝手な読解では無く、作品のなかに根拠をもとめ、何をどう考えれば（読めば）よいのかが分かることで、対話的な学びの質が確保され、生徒の思考も深まっていたと思われる。

授業評価アンケートの変化を通して

授業評価アンケートの質問2「この授業は思考力を発揮させる場がありますか」…理解していること、できることを使って、少しレベルの高い疑問等を考えさせる場をつくってあげて、習得した知識・技能をつかう練習・経験をさせるという意図の問…をひとつの評価指標としてみると、第1回の授業評価アンケートのポイントは、あてはまる24。やや当てはまる15。あまりあてはまらない2。という結果であった。これが第2回（12月）は、あてはまる32。やや当てはまる7。あまりあてはまらない2。となり、「あてはまる」と答えた生徒の割合が上昇している。実際、生徒は修学旅行の後から期末試験までの行った「こころ」の授業を楽しそうに、そして「今日はこの場面を考えよう」という主体性を持って取り組んでいたと思う。

こちらがしっかりとした意図「少しレベルの高い疑問等を考えさせる場をつくってあげて、習得した知識・技能をつかう練習・経験をさせる」を持ち、生徒状況をみながら、適切な仕掛けをすることで、生徒の学びは深まっていくのだと実感できた授業であった。このことは一定の成果と考えたい。

一方、質問3「この授業はまた、学びたくなるような興味・関心・意欲がわきますか」のポイントは、第1回、あてはまる9。やや当てはまる18。あまりあてはまらない11。第2回は、あてはまる11。やや当てはまる17。あまりあてはまらない11。であり、ほとんど変化が見られなかった。この質問は「生徒にとって新しいこと（未知の分野・生徒にとっては異文化）を学ぶ意欲をより強くさせ、人生の幅を拓けようという意図」にもとづくものであるから、パフォーマンス課題のありかたとも関連させて、今後も引き続き改善を指向していきたい。

パフォーマンス課題

サブテーマとして考えた、「本質的な問についての思考を深めるための仕掛けを、パフォーマンス課題の工夫を通して行う」については、タイムマシンに乗って大正時代に行き、文芸誌の記者として、「漱石先生」へインタビューするという想定でのインタビュー記事を書くことをパフォーマンス課題として設定した。それぞれが書いたインタビュー記事を、読解グループで読みあい、グループの代表作品を選び、さらに授業者が独断で選んだものも加えてまとめ、冊子にして配付した。

作品は「近代と個人」「Kの覚悟とは」「奥さんという存在」「開いていた襖」「襖という仕掛けと遺書」など非常にレベルの高いもので、作品の読解が深いものであったことを教えてくれていた。

生徒自身に自覚が無いのかも知れないが、質問項目3の「生徒にとって新しいこと(未知の分野・生徒にとっては異文化)を学ぶ意欲をより強くさせ、人生の幅を拓けよう」という意図から見ると、生徒は文学作品を主体的・対話的に学ぶなかで、作者の視点からも作品を読解し、まさに「人生の幅を拓けて」いるようにも思われる。教科書に掲載されている場面だけで無く、作品全部を読みたい、読んだという生徒も多数いる。また、生徒はこの授業で学んだ文学作品の読み方を、他の作品を読む際に活用することで、より深く作品を読み味わうことができるようになってくれると思う。